

病院名	A	B	C	D	E
精神科リエゾンチームによる介入効果	患者・家族支援、入退院調整、スタッフ支援	患者・家族支援、スタッフ支援	患者・家族支援、入退院調整、スタッフ支援	患者・家族支援、スタッフ支援	患者・家族支援、入退院調整、スタッフ支援
一般病床数	358	一般400、緩和ケア25	865	482	510
診療科数	17	18	31	31	24
総医師数	96		350	171	178
平均外来患者数(日)	1018.7	680	3000	1200	966
一般病棟平均入院患者数(日)	316.4	370	800	420	471
精神科医師数(常勤/非常勤)	3/2	3/0	6/1	2/0	7/0
精神科病床数	身体合併病床4床	なし	60	なし	50
精神科専門看護師数	1	0(候補生1)	0	1	0
精神保健福祉士数	3(内1名は臨床心理士兼)		3(他科と兼任)		3
臨床心理士数	0(PSWと兼任で1名)	2	常勤4、非常勤2	2	5
件数(年)	2243	540	500	1507	241
コンサルテーション・リエゾン件数(日)	9.0	2.2	2.0	6.0	1.0
コンサルテーション・リエゾン形態	直接、コンサルティ中心	直接、コンサルティ中心	直接、コンサルティ中心	直接	直接、コンサルティ中心
構成員	精神科医、リエゾン看護師、PSW(臨床心理士兼任)	精神科医、臨床心理士、薬剤師、看護師(リエゾン候補生、がん看護専門)	精神科医、看護師、臨床心理士、PSW	精神科医、研修医、臨床心理士	精神科医、神経内科医、PSW、看護師(認知症認定、精神科)、臨床
医師の役割	診察	診察、一般科の看護師に対する教育	診察、合同カンファレンスへの参加	診察、研修医や心理士への助言・教育	診察
看護師の役割	直接ケア、病棟への教育、チーム内の調整	直接ケア、病棟への教育、チーム内の調整	直接ケア、病棟への教育、他科病棟との連絡	メンバーに入っていない	チームや病棟との連絡役と事前ラウンド
PSWの役割	院外とのケースワーク、カンファレンスの窓口	メンバーに入っていない	院外とのケースワーク、社会資源の情報提供	メンバーに入っていない	院外とのケースワーク
臨床心理士の役割	心理療法	心理療法	心理療法	心理療法	心理療法
特徴	チーム医療推進部が平成17年から活動しチーム医療を推進している。院内で活動しているチームはCL以外に緩和など。臨床報酬算定の有無にかかわらずチームには年間30万円の活動費が支給される。活動費は職員に配布するパンフレットや出張費などに充てられている。医療安全(せん妄、うつ病など)への活動もチームとして行い、スタッフ向けにこころ通信を発行している。	がん患者に対するコンサルテーションリエゾンが中心。チームによるカンファレンスはほぼ毎日行われ、緩和ケア科と精神科、薬剤師と精神科などのカンファレンスが行われている。コンサルテーションの多い科(外科など)にはカンファレンスに精神科が出向いている。医療安全面ではせん妄や認知症の勉強会を行っている。	医師と看護師のチームではあるものの、主として医師が活動している。医師が診察し、必要時に看護師や心理士に活動を依頼する。CLの方法は主として精神科への他科受診。チームメンバーは通常業務のほかに活動を行っており多忙。	精神科医、研修医と心理士が中心のチーム。精神科医は直接的な診察も行うが、研修医や心理士への助言や教育も大きな役割としている。午前中に研修医と心理士が病棟ラウンドを行い、直接的な介入をしている。	週に1回の認知症ラウンドを実施している。病棟看護師を通じて、認知症認定看護師に依頼が入り、認定看護師がラウンドの上、チームメンバーでカンファレンス後ラウンド、その後再度カンファレンスを行っている。

表2：精神科チームの活動状況の比較

<目的> 一般診療科で診療中の患者に対して、精神科医療チームが係わり、診療、治療、支援を実施することで、(患者が)一般診療科、精神科における治療を適切に、有効に、十分に受けることができる。

<対象者> ①一般診療科で身体的入院治療を受けている患者のうち、精神症状が出現し、身体疾患の検査、治療が適切に行うことができない者。②精神科医療チームが係わることで身体疾患の治療効果の向上が見込まれる者。

<適応基準> 検討中      <除外基準> 検討中

	(入院中) 一般診療科受診時	精神科リエゾンチーム 介入時	(退院後) 一般診療科受診時
アウトカム	精神科医療チームの係わりを患者もしくは家人が了解できる	精神科医療チームが係わり、病態診断を受け、精神症状が改善する	身体疾患治療を継続できる
		家人が患者への接し方を理解できる	精神疾患が治癒もしくは、精神科診療が継続できる
		医療保健福祉サービスの情報が得られる	予防支援、介護支援が受けられる
評価項目	精神科医療チームの診療を受けられる	診療を受け、治療目標、治療計画が設定される	一般診療科を定期的に受診し、治療が継続される
	患者もしくは家人が精神科医療チームの話聞ける	病態診断、治療方針の説明を受け、患者もしくは家人が理解する。	必要に応じて、精神科を受診する
			必要に応じて、医療保健福祉サービスを依頼する
タスク	精神科医療チームが係わることのメリットを説明する	精神科医が病態診断を行い、必要な検査を実施する	一般診療科診療を継続する
	患者に受診するように説明する	患者、家人に病態、治療計画、接し方の説明、必要な日常生活指導を行う	精神疾患の治療方針、予防支援のインフォームドコンセントを得る
	家人に診療に同席するように指示する	医療保健福祉サービスの説明を行う	医療保健福祉サービスに関する手続きをする
	精神科に診療依頼を行う	依頼医に報告書を作成する	精神科診療を継続する、もしくは必要に応じて精神科依頼が行われる

表3:院内連携パス:「精神」合併症(身体科→精神科→身体科)(案)

